

学校努力点推進計画

名古屋市立八事小学校

I 研究テーマ

自律して学び続ける八事っ子

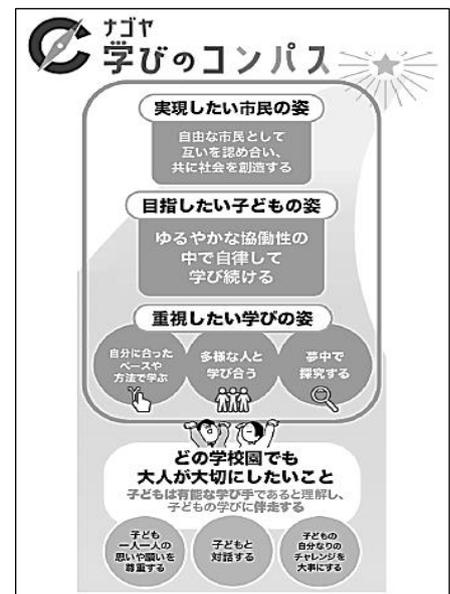
～学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける姿を目指して～

II 研究テーマ設定の理由

1 今日的な課題

能登半島地震後、被災者の支援にボランティアとして参加する人々や住民が団結して町の復興に取り組む姿が、テレビやインターネットで報道され、誰もが対等で、互いの存在を認め合いながら生きていくことの大切さを改めて実感することができた。これは、名古屋市教育委員会「ナゴヤ学びのコンパス（令和5年）」[資料1]で示されている「自由な市民として互いを認め合い、共に社会を創造する」姿の一つであると考えます。

今日、子どもたちの取り巻く社会は予測が困難な時代であり、「変動性 (Volatility)」「不確実性 (Uncertainty)」「複雑性 (Complexity)」「曖昧性 (Ambiguity)」の頭文字を取って、「VUCA」の時代とも言われている。今後、更にグローバル化や地球環境問題、少子化や人口減少が進んだり、感染症発生や国の侵略による国際情勢の不安定化が急に起きたりするなど、難しい課題に直面する。こうした課題を解決するためには、子どもたちは、「自律して学び続ける人」に成長していくことが欠かせない。このことは、「ナゴヤ学びのコンパス」でも述べられている。



[資料1] 名古屋市の学校教育を通じて目指したい姿

2 昨年度までの実践と児童の実態

本校では、令和2年度から令和3年度まで、「深い学びを目指す児童の育成」として、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努めてきた。その結果、主体的・対話的で深い学びの実現には、振り返り活動が必要不可欠であることが明確になった。令和4年度から令和5年度まで、「協働する力を高める児童の育成」として、仲間の考えを認め合い、自分の考えを見直す力を「協働する力」とし、それを高めていくために、仲間の考えの「いいね!」を見付ける場面と協働する場面に重点を置き実践を進めてきた。その結果、自他の考えを伝え合うことよきさ気付いたり、伝え合ったことを基に自分の考えを広げたりする児童の姿をよく見ることができるようになった。また、以下のような課題が明らかになった。

- ・ 最後まで粘り強く取り組み、個人の力を伸ばす。
- ・ 子どもたちが明確なめあてや課題をもって学習に取り組むことが大切である。
- ・ 学び方を知り、それを自ら選択し、学びと学びをつなげていく。

以上のような課題や実践、実態から、「自律して学び続ける八事っ子 ～学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける姿を目指して～」というテーマ設定に至った。

Ⅲ 研究の内容

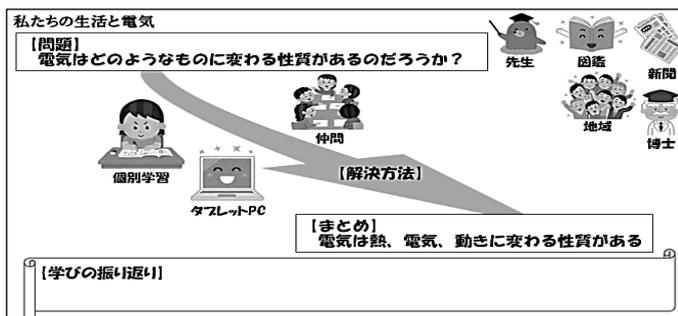
「自律して学び続ける八事っ子」とは、「学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける姿」である。本研究では、学びに見通しをもつために、基本的な1時間の授業の流れを共有する。振り返りながら学び続けるために、振り返りの時間に、タブレット端末を活用した八事小学校オリジナル振り返りシート「ハチゴト丸シート」にまとめる活動を取り入れる。

Ⅰ 基本的な1時間の授業の流れ

問題把握 (3～5分)	「ハチゴト丸シート」を基に、前時の学習を振り返ったり、本時の問題を確認したりする。
追究 (25～30分)	<p>問題の解決を図るために学習を進める。</p> <p>[授業中の教師の動きは？ (くすのきネット センター研究より)]</p> <p>Q 授業中の教師の動きは？</p> <p>40人いれば40通りのつまずきがあり、教師一人で全員に対応するというのは難しいです。また、自己学習力の育成という点からも、アドバイスし過ぎてしまうのは、望ましいことではありません。</p> <p>どうすれば子ども自身の力で目標を達成できるか、子ども同士の学び合いで解決できるかを考えて動きます。</p> <p>① どんな活動計画を立てたかを確認し、学習状況と合っていない場合は声を掛ける。</p> <p>② 子どもたちの取組を見守るように机間指導し、適宜声を掛ける。</p> <p>③ 子ども同士が学び合えるようにつなげていったり、「この動画を参考にしてみたら」というように、ヒントとなるようなアドバイスをしたりする。</p> <p>このように、見守るという姿勢を大切に、少しずつヒントを与えていくようにするとよいでしょう。</p> 
まとめ (3～5分)	本時の問題に対する考えを「ハチゴト丸シート」にまとめる。
振り返り (8～10分)	「ハチゴト丸シート」に本時の学習の振り返りを行う。

2 振り返り活動「ハチゴト丸シート」

「ハチゴト丸シート」には、[資料2]のように、「本時の問題」「問題を解決するための方法」「問題に対するまとめ」「学びの振り返り」の項目を必ず入れるようにする。そのシートを用いて振り返り活動を行う。



[資料2 ハチゴト丸シート (例)]

3 計画（現状案）

「ナゴヤ学びのコンパス」で示されている「自律して学び続ける姿」を参考に進める。

1年目：学びに見通しをもち、振り返りながら学び続ける姿を目指して

1時間の授業の中で、見いだした課題を自分に合った方法で解決する。基本的な1時間の授業の流れを基に、「ハチゴト丸シート」を用いて振り返り活動を行う。個別最適な学びの方法を全職員で共有することができるように、実践する教科を、学年で統一する。(国語、社会、算数、理科、生活)

2年目：学ぶペースや方法、内容などを自己選択、自己決定しながら学ぶ姿を目指して

小単元の中で、見いだした課題を自分に合った方法で解決する。基本的な流れを基に、「ハチゴト丸シート」を用いて学習の計画や振り返り活動を行う。

3年目：興味・関心等に応じ、やりたいことを見つけて取り組む姿を目指して

単元の中で、見いだした課題を自分に合った方法で解決する。これまで学んできた流れを基に、「ハチゴト丸シート」を用いて課題解決を図る。

IV 研究の方法

1 評価の仕方

(1) 「基本的な1時間の授業の流れ」について

質問紙による意識調査を行う。各学年や各部会で、児童の実態を把握するために、アンケートを実施し、研究に役立てる。年度の初めと終わりに行き、児童の変容を明らかにする。

(2) 「振り返り活動『ハチゴト丸シート』」について

「ハチゴト丸シート」の記述の変容から見取る。年度の初めと終わりの「ハチゴト丸シート」の記述の内容から、児童の変容を明らかにする。

2 授業実践

(1) 各学級担任及び関係する教科等の担当者は、年1回（原則1学期か2学期）、授業を公開し、指導方法や手立ての有効性について学び合う。公開する時期が重ならないように、各部会で調整する。

(2) 公開授業を行う際は、「授業づくりハンドブック 小学校編」を参考に、細案または略案を作成する。作成した指導案は全職員に配布する。印刷したものをレターボックスに入れるか、スズキ校務等を活用してデータで送付する。なお、校長、教頭、教務、努力点推進部長には、印刷したものを配布する。

3 保護者への情報公開

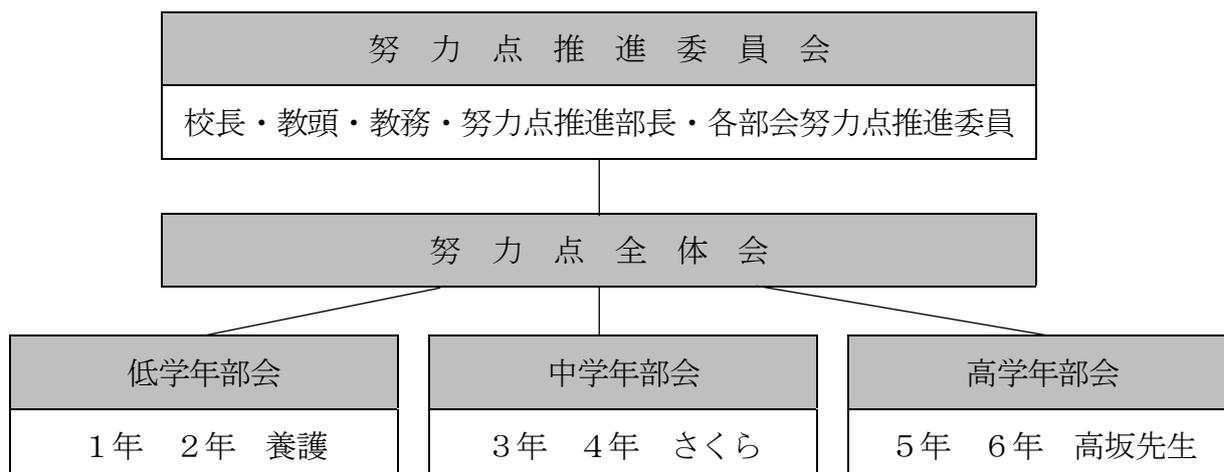
学校だよりや学年だより、保護者会資料、ホームページ等に、努力点の取り組みを掲載する。また、授業参観で努力点に関する授業を公開することも考えられる。

4 その他

(1) 実践の記録と研究の成果・課題について学年ごとにまとめる。

(2) 努力点推進委員会や各部会は随時行う。

V 研究の組織



VI 年間計画

月	活動内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーマ設定 推進計画作成 ・ 研究の方向の検討 研究推進のための組織づくり ・ 推進委員会 ・ 全体会【推進計画】 ・ 児童の実態把握 意識調査の実施 ・ 授業内容 方法の検討 1学期実践の検討
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1学期実践の成果と課題の検証 2学期実践の検討
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践 ・ 全体会【中間報告会】
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践 ・ 2学期実践の成果と課題の検証 (1月実践の検討)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ (授業実践) ・ 児童の実態把握 意識調査の実施
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究のまとめ ・ 全体会【最終報告会】 ・ 本年度の反省、次年度の取り組みについての検討
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次年度の研究計画 ・ 推進委員会

※ 各部会で随時検討会を開き、具体的な指導内容や方法を考え実践を進める。